男性用

こんなところに呼び出して僕をどうするつもりですか？

お願いです。

僕のことは内緒にしておいてください。

絶対に先生には言わないですから。

本当です。

約束します。

え？　お金ですか？

わかりました。

いくらですか？

いくら用意すればいいんでしょうか。

…本当ですね。

本当にその金額を用意すれば許してもらえるんですね。

必ず用意します。

ところで、それはそれとして例の件はどうしましょう？

まさか、知らないで押し通すわけはないですよね。

僕だって、命懸けだったんですから。

へえ。

そうですか。

それじゃあ、僕も約束は守れませんね。

それが何を意味するかは分かりますよね。

どんな約束かって？

貴方の命を助けるって約束ですよ。

あれ？

なんですか。

突然命乞いですか。

だらしないなあ。

さっきの威勢はどこへ行ってしまったんでしょう。

さあ、僕と遊びましょうよ。

ゲームの始まりです。

※このテキストを「アパシー学校であった怖い話」のオーディション以外の目的で使用することを禁止します。

女性用

やだ！

やだやだやだやだやだ!!

アイス買ってくれるって言ったじゃん。

えー、これは食べたくない。

確かにさあ、何でもいいって言ったよ。

でもさ、女の子の何でもいいっていうのは、

実は気持ちを察してくれってことでしょ。

私が何を食べたいかってことぐらい、調べておきなさいよお。

それぐらい、当然でしょう。

常識でしょう。

ねえ、アイス、アイス、アイス、アイス、アイスウ!!

…あ、ちょっと待って。

もしもし。

あー、ごめんね。

ちょっと今忙しいの。外せない。

うん、あとで掛け直すから。

ねえ、そんなわがまま言わないの。

後でいいことしてあげるから。

うん、わかった。何でも買ってあげる。

わかってる。

何が欲しいか、いつもちゃんとわかっているから。

だって、二人の心は繋がっているんだもの。

じゃ、またね。

うん、ばいばい。

…えーと、何の話してたっけ？

あ、そうだ。アイス買ってよ。

※このテキストを「アパシー学校であった怖い話」のオーディション以外の目的で使用することを禁止します。